

府中市 公園施設長寿命化計画

2019年12月

府中市 都市整備部公園緑地課

1. 都市公園整備状況

(2019 年 3 月末時点)

管理対象都市公園の数	管理対象都市公園の面積	一人当たり都市公園面積
274	130.01 ha	5.03 m ²

2. 計画期間（西暦）〔 2020 年度～ 2029 年度（ 10 箇年）〕

3. 計画対象公園

①種別別箇所数

街区	近隣	地区	総合	運動	広域	風致	動植物	歴史	緩緑	都緑	緑道	合計
130	7	2	1	2	0	0	0	0	0	1	10	153

②選定理由

公園施設で処分制限期間を越える施設は、老朽化の進行により部材の劣化や破損等が発生するため、安全性の確保が必要である。本計画では、本市が所管する都市公園274箇所のうち、2016年3月31日時点で開園後25年が経過している公園を優先すべきと考え、公園利用者の安全性の確保及びライフサイクルコストの縮減を目指し、公園施設の計画的な補修や更新、適切な管理を推進するため、153箇所の公園の施設を計画の対象とする。

4. 計画対象公園施設

①対象公園施設数

園路広場	修景施設	休養施設	遊戯施設	運動施設	教養施設	便益施設
			721			
管理施設	災害応急対策施設	その他	合計			
			721			

②これまでの維持管理状況

これまでの維持管理状況は、全ての公園施設（建築物、遊戯施設、公園施設等）を対象に、本市による維持保全（清掃、保守、修繕）と日常点検を行っている。
 遊戯施設はこれらの管理に加え、国土交通省「都市公園における遊具の安全確保に関する指針」及び社団法人 日本公園施設業協会（JPFA）が策定した「遊具の安全に関する規準JPFA-SP-S:2014」に基づき毎年1回の定期点検を実施している。
 この定期点検により突発的な事故・破損を確認及び予測し、破損部の修復や消耗部品の交換等、施設の修繕を実施している。

備考) 経過年数、これまでの維持管理状況、施設の劣化の可能性を記述

③選定理由

公園施設の破損状況によっては重大な事故を引き起こす可能性があることから定期的な安全点検や計画的な補修・更新等を行う必要がある。
計画対象公園については、公園施設の長寿命化対策により、公園機能の保全を図りつつ、日常点検や定期点検による確認により施設の安全性を維持し、長期間利用可能となる公園施設を目指す目的で選定した。

5. 健全度を把握するための点検調査結果の概要（個別施設の状態等）

点検調査は、2016年、2017年、2018年の3か年で実施した。

1. 遊具は、「遊具の安全に関する規準（JPFA-SP-S：2014）」（社団法人日本公園施設業協会、2014年6月）を踏まえて、公園施設製品安全管理士、公園施設製品整備技士等の専門技術者もしくは同等の知識・経験を有すると認められる者が点検を行った。

	健全度判定				備考
	A	B	C	D	
b. 遊具等 (721)	66	234	349	72	

備考) 点検調査実施時期・期間、点検調査方法、点検調査結果の概要（公園施設の健全度に関する全般的状況）を記述

6. 対策の優先順位の考え方

本計画では遊具のみを対象して長寿命化計画を策定している。遊具については安全性を最優先とした施設のため、健全度はC判定の施設については緊急度を「高」と設定した。また、更新の優先順位の設定にあたっては、工事発注を考慮し、公園単位で優先順位をつけるものとする。設定方法としては、緊急度判定を基に緊急度「高」を3点、緊急度「低」を1点とし、合計点数が高い公園から優先度を設定した。

		(施設)		
		緊急度判定		
		高	中	低
a. 遊具等	(721)	421		300

備考) 個別施設の健全度調査結果等に基づく緊急度判定の状況、考え方を記述

表 優先順位の設定方法例

	緊急度「高」 (3点)		緊急度「低」 (1点)		合計 点数	優先 順位
	施設数	点数	施設数	点数		
A公園	3	9	5	5	14	1
B公園	1	3	7	7	10	3
C公園	2	6	6	6	12	2

※なお、上記方法で優先順位を設定すると、施設数の多い公園の点数が高くなるが、施設数の多い公園は規模も大きく、利用頻度も高いことが想定されるため、合計値での優先順位設定とした。

7. 対策内容と実施時期

① 日常的な維持管理に関する基本的方針

維持保全（清掃・保守・修繕）と日常点検は、本市により随時実施し、公園施設の機能の保全と安全性を維持するとともに、施設の劣化や損傷を把握する。公園施設の異常が発見された場合は、使用を中止し事故等を予防する。また、この時点で健全度調査を実施し、補修、もしくは更新を判定する。

a. 遊具等

- ・ 日常点検及び年1回実施する定期点検により施設の劣化及び損傷を把握する。
- ・ 施設の劣化や損傷を把握した場合、利用禁止の措置を行う。
- ・ 同年に実施する定期点検の結果を健全度調査として活用し、対象施設の補修、もしくは更新を位置づけた上で措置を行う。

備考) 公園施設の種類に応じた日常点検や定期点検ごとの点検実施体制、点検方法などの基本的な方針を記述

②公園施設の長寿命化のための基本方針

1. 予防保全型に類型した施設

a. 遊具等

- ・ 日常点検及び年1回実施する定期点検により施設の劣化及び損傷を把握する。
- ・ 点検で施設の劣化や損傷を把握した場合、消耗材の交換等を行う他、必要に応じて利用禁止の措置を行う。
- ・ 定期点検の結果を健全度調査として活用し、施設の補修、もしくは更新を位置づけた上で措置を行う。

2. 事後保全型に類型した施設

- ・ 年1回実施する定期点検で施設の劣化及び損傷を把握し、公園施設の機能の保全と安全性を維持する。
- ・ 日常点検で施設の劣化や損傷を把握した場合、施設の更新を行う。
- ・ 使用見込み期間は、処分制限期間が20年未満の施設は、処分制限期間の2倍、20年以上40年未満の施設は、処分制限期間の1.5倍、処分制限期間が40年以上の施設は、処分制限期間の1倍を基本とする。

備考) 点検調査により把握した健全度を踏まえた、公園施設長寿命化のための基本的な方針を記述(次回の点検・診断、修繕・補修・更新、その他必要な対策について、講ずる措置の内容や実施時期を記述)

8. 都市公園別の健全度調査結果、長寿命化に向けた具体的対策、対策内容・時期など

※ 別添「公園施設長寿命化計画調書」（様式1「総括表」、様式2「都市公園別」、様式3「公園施設種類別現況」）による

9. 対策費用

①概算費用合計（10年間）【②+③】	498,742 千円
②予防保全型施設の概算費用合計（10年間）	415,031 千円
③事後保全型施設の概算費用合計（10年間）	83,711 千円
④単年度あたりの概算費用【①/10】	49,874 千円

備考）計画期間の概算費用（千円）を記述（様式1、様式2との整合に留意）。

10. 計画全体の長寿命化対策の実施効果

今回長寿命化計画を策定した公園における10年間でのライフサイクルコスト縮減額は0千円である。

備考）ライフサイクルコストの縮減額などを記述

11. 計画の見直し予定

①計画の見直し予定年度（西暦）：〔 2025 年度〕

②見直し時期、見直しの考え方など

施設の維持管理を適切に遂行するためには、適宜計画の補完・修正が重要である。特に、計画策定から期間が経過すると、長寿命化計画で定めた劣化状況や設置状況等が著しく乖離して、計画を適切に運用することができない。そのためにも、長寿命化計画の実施内容は、実際に行った維持管理や最新の劣化状況等を踏まえて、5年を目安に適宜補完・修正していく。